1Ca-2　　高校家庭科における住教育内容の研究　Ⅱ――視聴覚教材の開発について

鳴門教育大　　○原　佐緒理　　谷崎通子　　湯川聰子

目的：今日，家庭科教育においても高齢化問題への取組みが緊急のものとして求められている．しかしながら一方では，核家族化の進展する中で，当の高齢者の実像は若い世代の前から遠ざかっており，教育の中で高齢者の生活への理解を深めるためには，まず高齢者への関心を持たせ，親しみを喚起することから始めなければならない．そののちに，福祉や住生活に関する問題に目を向けさせる手順を踏む必要がある．とくに住居領域の学習では他の領域以上に視覚に訴える教材の必要性が高く，効果も大きい．「高齢者の住生活」というテーマに，家庭科教員は深い関心をもち授業に取り入れたい要望は強いが，教員自身の研究経験が乏しい分野でもある．そこで，教育目的に適合した視聴覚教材によって授業への取組みが容易になることを期待し，ひとつの提案としてのビデオ教材を試作した．

方法：高齢者に対する理解を進めるための導入用のもの，老若世帯のための新しい居住形態である二世帯住宅の紹介，さらに地域における老人給食に取り組むボランティア活動を取材したビデオをそれぞれ制作．高校家庭科の教員，大学生の試聴を経て改良し，現場の授業での利用を試み，感想を求め，事前事後の老人イメージの変化によって教育効果を探ろうとした．対象校には都市部（京都府）と地方（徳島県）の高校を選択している．

結果：試聴結果は概ね，今回の試作ビデオはインパクトが強く，効果的な教材であることを裏付けている．都市部と地方では同じ教材でも受けとめ方に大きな違いがあり，議論のきっかけを提供する素材として役立つことがわかった．また，事後のイメージ調査は老人観の変化を示しており，提示する老人像の選択の重要性を示唆するものがあった．